

# 令和2年度 学校評価結果公表シート

学校法人 廣瀬学園  
名張よさみ幼稚園

当園では、令和2年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施致しました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園経営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。

今年度の学校評価結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

## I. 教育目標

### 教育目標

「清く・正しく・たくましく」 自らの力で行動できる幼児を育成する

### 教育方針

「自立心・自主性の育成」

### 教育の特徴

1. 強い身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動、行事などを通して)
3. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流、地域交流を通じて)
4. 豊かな感性と想像力を養う。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
  - ・「おはようございます」という 明るい心
  - ・「はい」という 素直な心
  - ・「すみません」という 反省の心
  - ・「わたしがします」という 積極的な心
  - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
  - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

## II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。

幼保連携型認定こども園としての特色を生かし、0から就学前までの連続的な保育や、子どもが自ら考え行動できる環境、活気ある園を目指す。

また、周囲の自然や子育て支援の充実など自園の長所を確認し、特色を活かした教育を行っていく為の土台を作る。指導計画を振り返り、導入の大切さを共有課題とし、子どもの持っている本来の可能性を引き出せる保育に努力する。

### Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
1 教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。また、その為にどのような取り組みがなされているか。	A	園の教育方針や目標については、研修で職員間の共通理解を深め一人ひとりが園の方針や保育・教育の仕方について学べるようにしている。 毎日の朝礼・毎週金曜日の終礼・園会議・リーダー会議・園内研修等計画と振り返りを繰り返し行い意識を高め教育保育に努めている。 終礼では、園長の思いを聞き取り、園の方針に沿った活動の確認をリーダーを中心に行っている。 園長、副園長、主任、リーダーなど、組織の中で置かれた立場を念頭に入れ、教育方針を共有し組織作りをしている。
2 指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	A	幼稚園教育要領を念頭に置き、幼児期に育みたい資質・能力を引き出せるカリキュラム作りをしている。 日案・週案・月案は、子どもの育ちや自らの保育実践に繋がる記録の方法を考え、反省と改善点も記入している。 日案は、スムーズに保育を進めることができる様に計画を立て、個人記録や、反省の充実を計っている。 又、その日の反省は、学年ごとな話し合い、週案や、月案が適切であるか話し合っている。 又、副園長・主任・副主任等に相談し、適宜アドバイスを受け、日々の保育に即時生かしている。
3 教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為にどのような取り組みを行っているか。	B	異年齢保育の充実が成されるための環境構成、グループの作り方、教師の役割、保護者への報告を会議で確認しながら進めている。 特に、ねらいや関わりを保護者に手紙で伝えることで異年齢の関わりの大切さや、関心を高めている。 子どもたちの自然な関わりができるよう活動内容、環境構成準備物を意図的にしている。 「おひさまデー(自由遊び)の充実を計り、子ども同士の関わりを増やせるようにしている。
4 指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	様々な遊びを通し、個々が経験豊かに活動できるよう準備物や環境を整えている。 年齢に応じた導入、興味づけの大切さを考え、「やりたい」という気持ちに寄り添い、出来た時の喜びを大切にしている。 音楽や、体育遊びなど身体全体を使った動的な遊びと造形・絵画・茶道などの静的活動の保育を総合的に実践している。
5 研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	A	園内研修の充実を図るため、月1回程度公開保育をし子ども理解を中心に、職員間で話し合い意識を高めていけるようにしている。 子ども理解研修の回数を重ねることで、職員の子どもへの思いが深まり、保育教諭としての位置付けや、対応の仕方が明確になり、保育の深まりが増えた。
評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
6 安全管理体制の整備	安全管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	避難訓練を定期的実施し、災害・防犯への意識が深まった。 又、振り返りとして、終礼で反省会を行うことで、課題を出し合い次回に繋げる事ができた。 アレルギー対策の充実として、給食チェックを何重にもし、チェックリストへの記入もしている。 エビペン講習も行い、共通理解として職員全員が取り扱えるようにしている。 プールの監視は、必ず一人配置し水難への対策をしている。又、保育室や遊具の点検は毎日行い、安全チェック表に記入をしている。 保護者来園時には園内立入証を配布、携帯してもらっている。 災害時の備蓄にも積極的に揃えている。

7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか	B 給食時の消毒の徹底をしている。戸外から戻った時には、手洗いうがいの習慣を身に付ける様にしている。 又、未就園保護者の来園する行事や保護者参加の行事での消毒も励行している。 園児の排泄物、嘔吐物の処理法も徹底し、園全体に感染が広がらないように心掛けている。感染防止に消毒液を含ませ拭き掃除をしている。 給食など食品を扱う時は、手袋・マスク、エプロンの着用を忘れず衛生面に注意を払っている。 コロナ対策に心掛けている(マスク着用・消毒・食事時の机配置等)
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができていますか。	B 田植えや、稲刈りの仕方を地域の方から学び、体験させてもらう事でお米の生長に興味をもつ機会にしたり、各クラスの花壇に季節にあった植物や野菜を植え育てている。 幼少の連携や老人ホーム訪問の計画はしているが、コロナの影響もあり実行出来なかった。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

#### IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	近年の子どもを取り巻く環境に、新型コロナウイルスが大きく影響し、行事の在り方の工夫や保育の在り方を考え保育をしてきた。職員間で考える機会が最も増えた年でもあった。新しい生活様式の理解を共有し、園全体で様々な事象に対応していく必要がある。 又、指導計画の大切さを再認識するとともに、常に子どもの姿と照らし合わせ計画をしていくようにしたい。外遊びの在り方について話し合い、子ども主体的な保育を目指したい。 特別な支援が必要な子ども保護者に対する関わり方にも留意し、職員は、専門性を高める必要がある。
2	研修・研究への取り組み	リモート研修への参加を積極的に行い、いろんな分野での学びに繋がられる様に努力する。 グループ討議研修や実技研修を取り入れ、尚且つ、写真や映像を使用し話し合い、何が見えてくるのか考える力を共有し、日々の保育に活かせられるよう保育の質を更に向上していく。
3	安全管理体制の整備	危機管理マニュアルの共通理解をし一人ひとりの意識を高めるようにする。 避難訓練、救命救急講習の受講は引き続き実施し、突発的な対処もできるよう知識と対応力を高める。 コロナ対策を職員間で話し合い、意識を高める。
4	地域との連携	園からの情報提供や保護者や地域の方との情報交換、園行事への参加の機会を増やし、園の教育や子どもへの関わり方についての理解を深めてもらえるように発信していきたい。

#### V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。 この学校評価での反省を活かして、来年度さらに向上されていることを期待しています。
---